

前近代スポーツ

シュローブタイド・フットボール

シュローブタイドフットボール

- シュローブタイド(shrovetide)
- キリスト教(カトリック)の宗教行事
- 四旬節：
40日間のキリストの苦行の追体験・
禁欲 懺悔、告白、断食、
- 四旬節前三が日……**世俗欲充足**
暴力(フットボール)飽食、
無礼講(晴れの日)

シュローブタイドフットボールの特徴

- ルール: **ローカルルール**

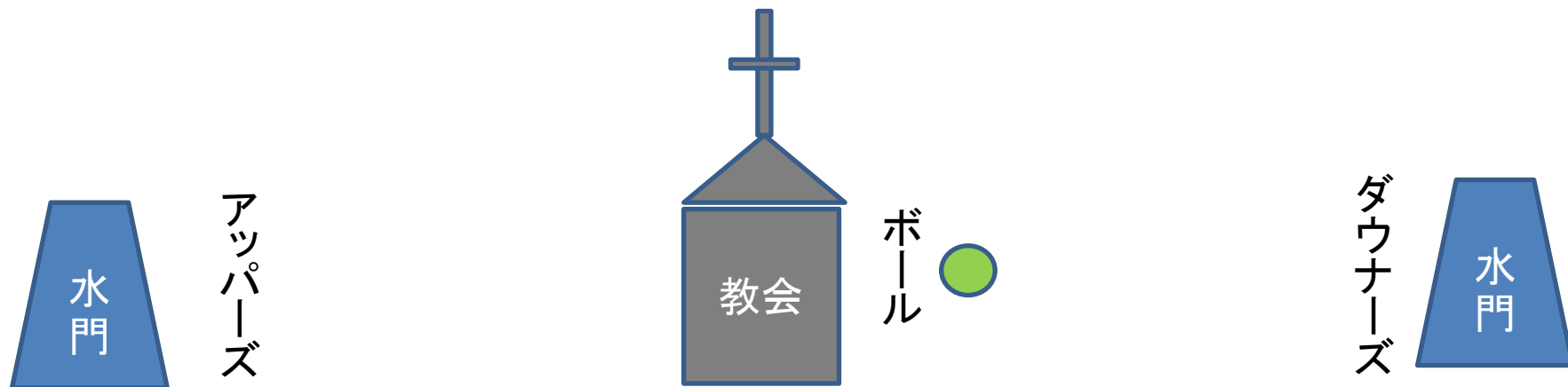
地域により解釈が異なる

不文法・・・口承

- アッシュボーンのルール

町の中心にある教会前広場から

自陣のゴール(水門)にボールを運ぶ



担い手

- 祭り:

成人、男性

女性は不浄(生理)として忌避

キリストや仏陀は女性を差別せず

キリスト教会や仏教が制度化されたとき男性優位の支配が確立

- 女人禁制の例:

大相撲の土俵に女性は登壇禁止

奈良県大峰山の女性登頂禁止

技術・戦術

- アップーズ

川上のホワイトカラー層

多人数

ハグ・・・ボールを集団で運ぶ

- ダウナーズ

川下のブルーワーカー層

やや少数

リバープレー・・・川中でボールを運ぶ

得点と時間

- 得点

原則1点

短時間の決着・・・2個目のボール投入

- 時間

午後2時から10時まで

二日目は午後5時まで逆転勝利が可能

- 長時間の身体接触

コートと人数

- コート
町全体
例外・・・教会と墓地
- 人数
全町民(7000人)

2:00pm開始

5:00pm逆転

10:00pm終了

水門

現実

- ・ボール付近の人
- ・ボールから離れた人

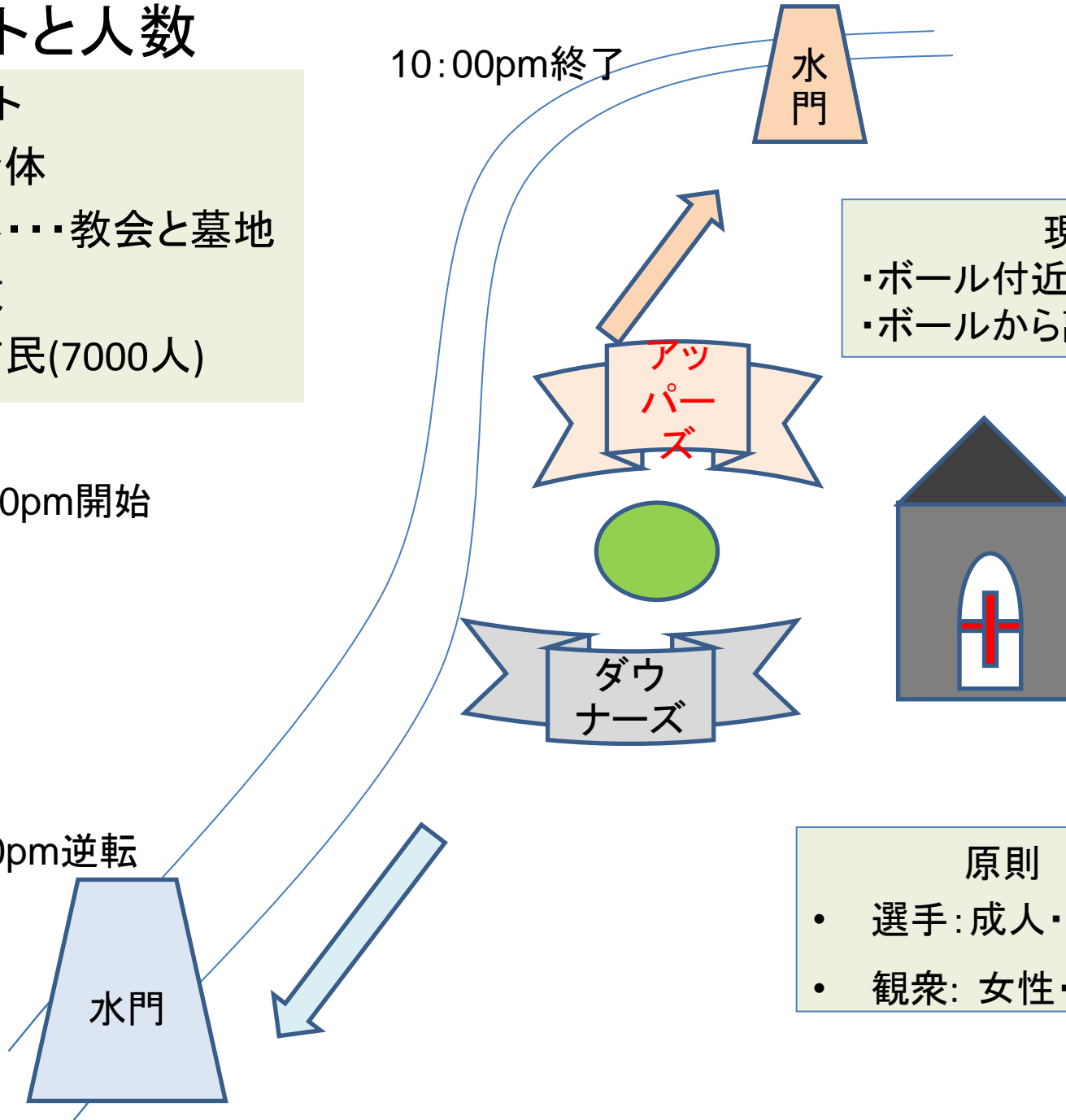
アッ
パー
ズ

ダウ
ナーズ

原則

- ・ 選手: 成人・男性
- ・ 観衆: 女性・老人・子供

水門



社会的機能

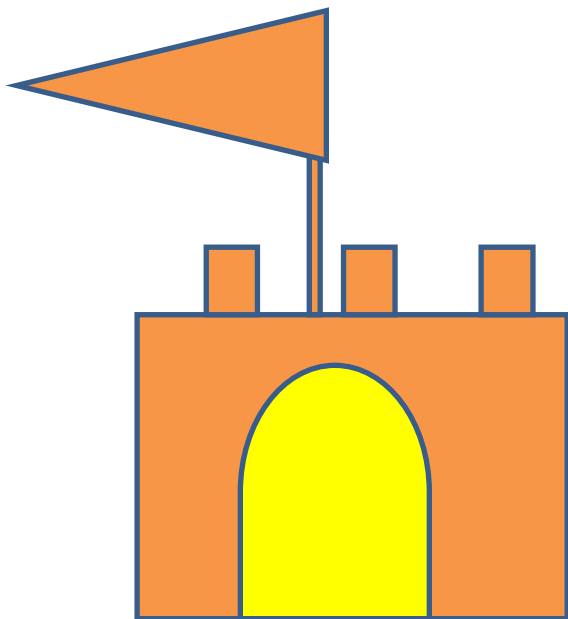
1) 社会統制

- ・「町が一つになる」
- ・一体感、帰属意識
- ・ガス抜き(社会的不満の解消)

2) 通過儀礼(男らしさ)

- ・オフ・サイド(off side)(自陣を離れている)
- ・ノー・サイド(no side)(敵味方なし)

馬上槍試合



アーチ型城門の攻防)

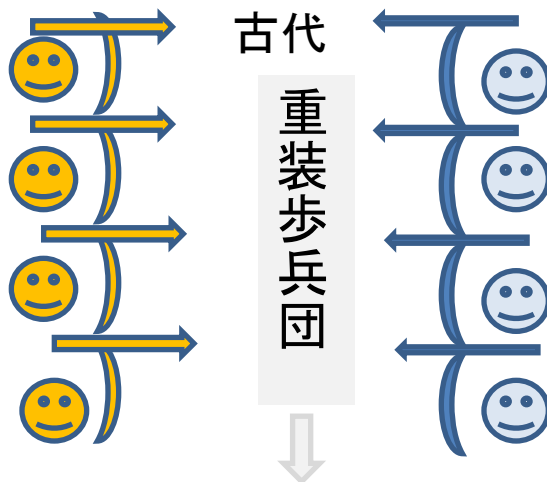
城外騎士の攻撃:

chasse (仏) chase
(英):

狩猟、追跡

城内騎士の反撃:

rachasse (仏)

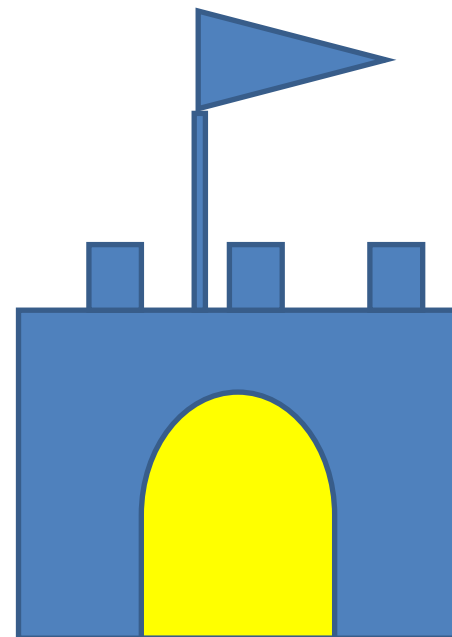


騎馬戦

- トーナメント
集団戦
- ジュースト
個人戦
- 武装パス
城門の攻防

城攻め:
領土、
領主・保釈金

1184 精霊降誕祭
ハインリッヒ6世騎士叙任式
王侯・貴族の結婚式・国賓歓迎式



中世初期:
社会不安定＝実戦性

中世中期:
社会安定＝娯楽性

ボールの変化

- 近代のボール
ダンロップ博士 19c
自転車のチューブ、テニスボール、
- 中世のボール
コルク + 牛革
- 古代のボール
太陽信仰 ボール=神
ボール投入者=地上の支配者
(神の代理人)

参考文献

寒川恒夫編『図説スポーツ史』朝倉書店1991年

参考文献

『最新スポーツ大事典』大修館書店1987年

E.P.マグーン、忍足欣四郎訳『フットボールの
社会史』岩波新書1985年

寒川恒夫編『図説スポーツ史』朝倉書店1991年